

巻頭言

「国会中継の生字幕」

理事長 新谷友良

昨年 10 月から NHK は国会の本会議と委員会の生中継すべてに字幕を付ける取り組みを始めています。

現在、地上波のテレビ放送にはほとんどの番組に字幕が付くようになっていますが、① 技術的に字幕を付けることができない番組（複数人が同時に会話を行う生放送番組） ② 外国語の番組 ③ 大部分が楽器演奏の音楽番組 ④ 権利処理上の理由などから字幕をつけることができない放送番組、については総務省の定めている「放送分野のアクセシビリティ指針」で字幕を付ける対象番組から除かれています。

字幕の付いていない代表的なものは国会中継です。国会審議は声によるやり取りがほとんどなので、画面を見るだけでは内容の理解が非常に困難で、全難聴などが国会中継に字幕を付ける要望を続けていましたが、上記①の「技術的に字幕を付けることができない番組」を理由に、その要望はなかなか実現しませんでした。こうした中、2018 年 10 月の衆院本会議で安倍首相の所信表明演説に漸く生字幕がつきましたが、委員会審議については「本会議での討議にあたっては、事前原稿が準備されるので字幕訂正の可能性がほとんどないが、委員会審議においては事前原稿がなく、正確な字幕付与が困難である」ことを理由にその後の進展がみられませんでした。

その後、「障害者情報アクセス・コミュニケーション施策推進法」の成立などにみられる情報アクセスに対する権利要求の高まりを背景に、テレビ字幕拡大の必要性は放送事業者の方も含めた関係者の共通認識となり、それに加えて字幕制作現場の着実な努力が、「正確性・政治的公平性などをできるかぎり損なわず制作できると判断した場合」という条件を付けながらも、今回の国会中継生字幕の実現をもたらしたものと評価しています。

今後の生字幕の課題は、対象番組の拡大に加えて、見やすい字幕の実現と思えます。特に、国会中継のような声による情報が多い番組では、遅れた字幕、多すぎる字幕は見る人にとって大変負担の多いもので、NHK も「字幕の行数、文字数、位置を検討し、生放送において同時性確保のために、冗長な言い回しなどを省いて要約する取り組み」を進めたいとしています。国会中継は NHK プラスでも視聴が可能ですので、見やすい字幕実現のために、ぜひ多くの方に見ていただきたいと思います。